

気象研究所の移転・拡充計画の紹介記事の投稿のお願い

日本気象学会会員各位殿

気象研究所が、1/4世紀以上の長さにわたって気象学に大きい貢献をしてきたことは学会員のみなさまをご存知の通りです。また同研究所に所属する学会員が、気象集誌の編集や各種の委員会を通じて、わが日本気象学会の運営に欠くことのできない役割を果しつつあることも、みなさまをご存知の通りです。

気象研究所では、筑波学園都市へ移転する計画の予算案がつくられつつあります。その内容については、気象庁関係の学会員は庁内の広報紙などを通じてご存知のことと思いますが、全学会員に、機関誌天気紙の紙面の上でお知らせしたことはありませんでした。

大気物理研究所の創設、現業官庁の研究環境と待遇の改善とならんで、現業官庁付属の研究機関の拡充・強化は、日本気象学会の長期計画の目標の一つであります。そこで日本気象学会の長期計画委員会としては、まず何よりも、気象研究所の移転・拡充計画の内容を多くの学会員に知っていただくことが、気象学の水準の向上と発展にとって不可欠なことと考えて、気象研究所に所属する学会員から計画の概要について原稿を寄せられるようお願いいたします。原稿の到着次第、天気に掲載して全学会員に紹介したいと考えております。

また、気象研究所外の学会員の方で、日本の学術水準の向上の観点から気象研究所に期待する意見をお持ちの方は、天気の通信欄へ原稿をお寄せ下さるよう、長期計画委員会から合わせてお願いいたします。

あるいは学会員の中には、大気物理研究所案を具体的に綿密に扱ったのにかかわらず、気象研究所には長い間ノートタッチで今頃急に取り上げるとは……といふかられる方もおられるかもしれませんが、その点につきましては、次のように考えております。

大気物理研究所は創設の計画であって、現実に職員は存在せず、しかも予算案を提出する前でしたから、当時ほどの大学に設置するかが公式に決まっていなかった段階にあったので、必要な部局の名をあげて具体的に議論をして、しかもそれを文章につくりました。

気象研究所については、日本学術会議が発表した国公

立研究機関の問題点に述べられている沢山の問題と同じ問題が、長期計画草案をつくる段階で、口頭ではげしく討論されましたが、最終的な文章にするときには、既存の研究機関については、第一にその研究者の独立性を尊重すべきであるとする観点から、拡充強化が必要であるという抽象的な線でまとめられたと私は理解しております。

今回も長期計画委員会はこの線を超える積りは全くありません。今の時点で、この投稿のお願いを出した理由は、9月に開かれた気象学会理事会の席上で、当の気象研究所に所属する5人の理事から、移転・拡充計画についてよく知らない学会員が多いので、長期計画の面で考えて欲しいとの意見が出されましたので、これに応じて長期計画委員会が企画したため、いささか唐突にお願い申し上げた形になりました。もっと早くから、この企画を立てていればよかったと思っております。

しかし、今からであっても、全学会員に計画が知れわたり、その中から注目に値する意見がでてくることがあれば、気象研究所の今後の計画の中に生かされることもありうるでしょうし、またそのことは、気象学の発展につながることでありますから、日本気象学会の重要な仕事の一つであると考えています。

お願いの筋は以上の通りです。

つきましては、気象研究所に所属する学会員の方からは、400字詰原稿用紙4枚程度に、関連する部局独自の計画、あるいは電子計算機、野外測風塔など複数の部局にまたがる計画、また現存しないが新設される計画の部局の案などありましたら、原稿をお寄せ下さるようお願いいたします。また海洋や地震の計画も、隣接領域として重要なので、原稿をお寄せ下さることを期待します。

原稿送り先：277 千葉県柏市旭町 7-4-81

気象大学校 駒林 誠

気象研究所外の学会員のご意見は、直接に天気の通信欄に投稿下さるようお願いいたします。

1972年10月10日

日本気象学会長期計画委員会
委員長 駒林 誠